

要約（邦訳）

A discussion on research methods for LGBTQ+ minors: Interviews with support group facilitators

LGBTQ+ 未成年対象の研究方法の一考察 サポートグループ運営者へのインタビュー

田中将司 東海大学
疋田忠寛 九州ルーテル学院大学

本邦の未成年の LGBTQ+ の心理的課題は大きく、支援に関する研究が望まれるが、リクルートの在り方などからリスクとベネフィットを検討し、独自の研究手続きを開発する必要がある。本研究は、LGBTQ+ サポートグループのファシリテーター 5 名へのインタビューを質的記述的に分析することで、サポートグループに参加する未成年の LGBTQ+ を研究対象者とする際のリスクとベネフィットを探索的に明らかにし、独自の研究手続きについて一考察を行うことを目的とした。概ね先行研究と一致するような結果が得られたが、本研究独自の結果も 2 点あった。一つ目に、「会場までの道のりの安全性の確保」のような、研究参加前後のリスクと対応の必要性であり、二つ目に、「研究者のネームバリュー」のような、大々的に認められている状況でなければ、未成年の LGBTQ+ が研究参加できないことへの対応の必要性であった。これらの結果が得られた背景に、先行研究との国や文化の差異や、本研究自体の手続きの影響があったと考えられた。

キーワード：LGBTQ+, 未成年, 研究方法, サポートグループ
